

令和 6 年 6 月 21 日現在

機関番号：34315

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2019～2023

課題番号：19K23172

研究課題名（和文）東南アジアのザカート制度化の差異をめぐる実証研究

研究課題名（英文）An Empirical Study on the Difference of Zakat Institutionalization in Southeast Asia

研究代表者

足立 真理 (Adachi, Mari)

立命館大学・衣笠総合研究機構・特別研究員 (PD)

研究者番号：10848675

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,200,000 円

研究成果の概要（和文）：本研究は、近年注目される東南アジアにおけるイスラームの義務の喜捨（ザカートと呼ばれる）の合理化/制度化に関して、その制度化のアプローチが対照的なインドネシアとマレーシアを取り上げ、地域研究の視座から明らかにするものである。両者の比較を通じて、現代的要請に対応したザカート制度化の具体的実態とその特徴および、差異化した過程をめぐる。その成果としては、インドネシアでは開発言説による強制化、制度化に対抗するローカルな抵抗が見られたものの、マレーシアでは上からの制度化が顕著で、まさに両国のイスラーム化の違いが顕著に明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の社会的意義としては、利他的な喜捨が社会においてどう解釈され、時代によって概念が変遷されているかをインドネシアとマレーシアの実践から明らかにした点である。本研究成果として、日本語、英語のみならずインドネシア語でも書籍として研究成果を出したことは、学術成果の当該地域への還元という意味でも大きい。また学術的意義としては、インドネシアにおけるザカートの歴史的位相にイスラーム経済の観点を代入して論じたところが大きい。

研究成果の概要（英文）：This study focuses on Indonesia and Malaysia, two countries with contrasting approaches to the institutionalization of zakat in Southeast Asia that have attracted attention in recent years. Through a comparison of the two countries, this study focuses on the specific reality and characteristics of zakat institutionalization in response to contemporary demands, as well as the processes that have differentiated the two countries. The results show that while local resistance against coercion and institutionalization through development discourse was observed in Indonesia, institutionalization from above was prominent in Malaysia, and the differences in Islamization between the two countries are indeed strikingly evident.

研究分野：地域研究

キーワード：イスラーム 喜捨 制度化 インドネシア マレーシア 東南アジア チャリティー

1. 研究開始当初の背景

本研究は、近年注目される東南アジアにおけるイスラームの義務の喜捨（ザカートと呼ばれる）の合理化/制度化に関して、その制度化のアプローチが対照的なインドネシアとマレーシアを取り上げ、地域研究の視座から明らかにするものである。観察に基づく調査を行う。研究開始当初の背景としては、総合的地域研究の視座から、アプローチの異なる2カ国（インドネシアとマレーシア）の比較研究を行うことで、「東南アジアにおけるザカートの合理化/制度化に関して、その発展経路に差異があるのではないか」という問いを立て、これを実証的に解明するための研究を推進すべく、本申請研究を立案した。

2. 研究の目的

本研究は、近年注目される東南アジアにおけるイスラームの義務の喜捨（ザカートと呼ばれる）の合理化/制度化に関して、その制度化のアプローチが対照的なインドネシアとマレーシアを取り上げ、地域研究の視座から明らかにするものである。両者の比較を通じて、現代的要請に対応したザカート制度化の具体的実態とその特徴および、差異化した過程をめぐることが本研究の最大の目的である。

3. 研究の方法

インドネシアとマレーシアの比較を通じて、現代的要請に対応したザカート制度化の具体的実態とその特徴および、差異化した過程をめぐり、本研究は、原典解析・理論研究・フィールドワークからなる総合的地域研究の手法に基づいて行う。最終年度報告として、当初予定していた規模での渡航がかなわなかったため、基本的に文献調査とオンラインデータの分析という手法をとった。またフィールドワークについてはオンラインでザカート管理団体の幹部に聞き取り調査を行うことによる補足した。

- (1) 原典解析：ザカート実践の次世代型再構築を提唱しているイスラーム知識人、研究者や実務家の文献（インドネシア語、マレー語、アラビア語）を解析し、イスラーム学において、現代的要請に対応したザカート実践の再構築がどのように正当化され、位置づけられようとしているのかを考察する。具体的には、新憲法時代におけるザカートの解釈は1970年代後半に出現した「イスラーム改革主義(gerakan pembaharuan Islam)」に起因すると明らかにした。この思想潮流はウラマーによる古典的学説だけでなく、クルアーンやハディースをイジュティハードにより再分節し、文脈をもとに解釈し、イスラームの教えを近代化させる必要性を強調した主要なムスリム知識人によって支持された。インドネシアのイスラームというローカルな文脈を考えたうえで、フィクフ（イスラーム法学）を創ることが盛んに提案された時代で、ザカートに関していえば、個人の給与（Al- Maal Al- Mustafad）概念を再解釈し、1年（ハウル）以上得ていればザカートの賦課対象とする「収入のザカート」概念が開花した。留意点としては、革新的な思想潮流の発端はM/ハズビー・シッディーキーやアミン・ライスなどのムハマディヤ系のイスラーム改革主義思想家だったものの、決してそれにとどまるものではないということだ。80年代からはNUのマスダル・F・マスウディーらも同様の考えに至り、革新的なザカート論を広めるためのセミナーやワークショップが多く開催された。彼とのちに大統領になるアブドゥルラフマン・ワヒドが率いたNUのプサントレンネットワークがけん引するプサントレンと社会開発協会（Pusat Pengkajian Pesantren dan Masyarakat, P3M）でもザカートのセミナーや女性の権利向上などに関するセミナーが最初に行われた。
- (2) 理論研究：ザカート実践の次世代型再構築に伴って生じる様々な制度的変化（徴収方法の変更、資金の運用開始、配分先の新規開拓など）の経済効果や社会への影響について、補完性原理のフレームワークを使って評価を試みる。
- (3) フィールドワーク：インドネシアとマレーシアのザカート団体を訪問し、当事者への聞き取り調査や資料・データ収集を通して、ザカート実践の次世代型再構築の実態を解明する。世界最大の島嶼国であるインドネシアでは、主要島（スマトラ島、カリマンタン島、スラウェシ島）も訪問し、多様な文化、社会を念頭にザカート実践を把握することに努める。マレーシアでは、各州のザカート組織を訪問し、同様の調査を実施する。

4. 研究成果

本研究は、近年注目される東南アジアにおけるイスラームの義務の喜捨（ザカートと呼ばれる）の合理化/制度化に関して、その制度化のアプローチが対照的なインドネシアとマレーシアを取り上げ、地域研究の視座から明らかにするものである。インドネシアにおいて、いかにザカート

が制度化され、統合してきたのかに焦点を当ててきた。マレーシアのザカートに関しては、より標準化されているので体系的な研究があった。両者の比較を通じて、現代的要請に対応したザカート制度化の具体的実態とその特徴および、差異化した過程をめぐった。その成果としては、インドネシアでは開発言説による強制化、制度化に対抗するローカルな抵抗が見られたものの、マレーシアでは上からの制度化が顕著で、まさに両国のイスラーム化の違いが顕著に明らかになった。

研究プロジェクト最終年度である 2023 年度は、2022 年度に引き続き Covid-19 感染拡大に加え、代表者の産休・育児休業により、本研究課題遂行に重要なフィールドワークを実施することができなかったものの、以下の点について研究を推進した。

(1)研究成果発表および研究ネットワーク構築：研究成果の発表として、国内の学会発表 1 回、国際セミナーで発表 1 回を行った。2023 年度はフィールド調査はできなかったものの、現地の当事者たち（ザカート管理団体関係者や、イスラーム経済の学生）に向けて発表をしたことにより、様々なフィードバックを得ることができた。

(2)ザカートに関する twitter データの入手：共同研究で twitter 分析のデータを手に入れることができた。これをもとに制度化について分析、検証し、中東学会の発表で有益なフィードバックを得た。現在英語のワーキングペーパーを提出し、現在査読中である。

(3)革新的なザカートの再構築、特に「収入のザカート」に関するその歴史的沿革とムスリム知識人の言説についてまとめた論文を投稿中である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 Adachi Mari	4. 巻 1
2. 論文標題 The Rapidly Rising Trajectory of Digital Zakat Payment in Pandemic Indonesia (A Case of the Collaboration Between BAZNAS and the GoPay)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 3rd Annual Management Business and Economics Conference Proceeding 2021	6. 最初と最後の頁 269 ~ 273
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.2991/978-94-6463-026-8_31	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計14件（うち招待講演 1件/うち国際学会 3件）

1. 発表者名 足立真理
2. 発表標題 現代インドネシアにおけるザカートの再構築：イスラームにおける制度化、デジタル化、新自由主義による影響をめぐって
3. 学会等名 日本中東学会第38回研究大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Mari ADACHI
2. 発表標題 The Rapid Trajectory of Digital Zakat Payment in Indonesia under the Pandemic: Case of the collaboration between BAZNAS and GoPay
3. 学会等名 3rd Annual Management Business and Economics Conference 2021（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 足立真理
2. 発表標題 インドネシアにおけるザカート（喜捨）のデジタル化とその課題
3. 学会等名 東南アジア学会第103回研究大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 足立真理
2. 発表標題 現代インドネシアにおけるザカート制度化の沿革：準市場化に向けた競合・協働事例の検討
3. 学会等名 日本中東学会第36回年次大会オンライン
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 足立真理
2. 発表標題 収入ザカート概念の発展：インドネシアとマレーシアの比較に向けた考察
3. 学会等名 KIAS三班合同研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 ADACHI Mari
2. 発表標題 The New Interpretation of Zakat (Islamic Almsgiving) Usage in Urban Area of Indonesia: Beyond Pious Neoliberal Perspectives
3. 学会等名 KASEAS-CSEAS Joint Conference 2020
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 ADACHI Mari
2. 発表標題 The Development of the Concept of Zakat on Salary: A Preliminary Study on Sharia Legality and Popular Reception in Indonesia and Malaysia
3. 学会等名 2nd International Colloquium on Asian Paths of Civilization and Development Confirmation
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 ADACHI Mari
2. 発表標題 Transformation of Recipient into Customer: Case Study of Zakat (Islamic Almsgiving) Management Organizations Using Microfinance Scheme for Distribution In Contemporary Indonesia
3. 学会等名 11th International Conference of Asia Scholars (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 ADACHI Mari
2. 発表標題 Productive Zakat Practices in Contemporary Indonesia: From the Viewpoint of Zakat Managers and Recipients
3. 学会等名 13th Kyoto-Durham International Workshop in Islamic Economics and Finance
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 ADACHI Mari
2. 発表標題 Development of 'Zakat on Salary' and 'Productive Zakat' in Contemporary Indonesia
3. 学会等名 10th International Symposium on Islam, Civilization and Science
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 ADACHI Mari
2. 発表標題 Contesting Almsgiving? Case Studies of Productive Zakat Practices in Malang City, Indonesia
3. 学会等名 International Workshop on Islamic Economic Studies: Toward a New Paradigm for Social Welfare
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 足立真理
2. 発表標題 現代インドネシアにおけるザカート（喜捨）制度化への挑戦と課題
3. 学会等名 現代イスラーム世界を眺望する：研究の最前線シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 足立真理
2. 発表標題 イスラーム思想における福祉的概念の探求－貧困の定義とマカーシド・シャリーア論の展開に着目して－
3. 学会等名 日本中東学会第35回年次大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 ADACHI Mari
2. 発表標題 “A Study of Riya and Taqwa in Cyberspace Posts: An Analysis of Twitter(X) Big Data Regarding Zakat in Indonesia”
3. 学会等名 5th International Colloquium on Asian Paths of Civilization and Development（国際学会）
4. 発表年 2024年

〔図書〕 計5件

1. 著者名 久志本 裕子、野中 葉編 足立真理	4. 発行年 2023年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 404
3. 書名 『東南アジアのイスラームを知るための64章』	

1. 著者名 西尾 哲夫、東長 靖 編（足立真理）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 392
3. 書名 中東・イスラーム世界への30の扉	

1. 著者名 ADACHI Mari, Nur Indah Riwijanti	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Kyoto University Islamic Economic Studies Project (KUISES), Graduate School of Asian and African Area Studies, Kyoto University	5. 総ページ数 80
3. 書名 Perkembangan Praktek Zakat Kontemporer di Asia Tenggara	

1. 著者名 NAGAOKA Shinsuke, ADACHI Mari, Nur Izzati Muhammad Norziran	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Hadhari Center for Islamic Civilizational Studies at Kyoto University	5. 総ページ数 68
3. 書名 New Waves of Islamic Social Welfare in Southeast Asia	

1. 著者名 光成歩、山本博之	4. 発行年 2020年
2. 出版社 京都大学東南アジア地域研究研究所（ディスカッションペーパーNo.92）	5. 総ページ数 116
3. 書名 『カラム』の時代 : マレー・イスラーム世界の女性と近代	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<https://kyoto.cseas.kyoto-u.ac.jp/organization/staff-2/adachi-mari/>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 International Workshop on Islamic Economic Studies: Toward a New Paradigm for Social Welfare	開催年 2020年～2020年
--	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------